

2月27日(日)
開催!

第3回やまがた市民活動まつりの見どころ

やまがた市民活動まつりは、山形で活動する市民活動団体を多くの市民の方に知ってもらい、理解、協力、参加してもらおうという趣旨で開催しています。今年も2月27日(日)12:30~15:30に霞城セントラル1階アトリウムで開催します。展示ブース、ステージ、ポスター・チラシ掲示コーナー、販売ブースとさまざまな形で35団体が参加します。ぜひ遊びに来てください。

ステージ部門

会場内のステージを使って、日頃の団体活動の発表を行います。参加は5団体。体いっぱい表現するダンス、昔語りの紙芝居、落語、歌など、発表内容も様々です。素敵なパフォーマンスをぜひご覧ください。



販売ブース ☆今回のまつりでは、3団体が自慢の商品を販売します。



〔特活〕障害者の地域生活を支援する会 「はとぼっぼくらぶ」

お豆腐「円〜まどか〜」は山形の大豆を使ったおいしい豆腐。プレーン味のほか、しょうがやゆずも好評です。天然塩とオリーブオイルで食べてもgood。



〔特活〕山形自立支援創造事業会 みちのく屋台こんにやく道場

みちのく屋台こんにやく道場の一番の売りは、山形の名物の玉こんにやくと煮卵を組み合わせた「玉こんにやく」。2本・3本と食べたくなるおいしさです。



〔特活〕未知

日常で使える陶器類、陶器のアクセサリ、手作りのクッキー、日高昆布などを販売します。手作りクッキーはごまやアーモンドなどの味をそろえています。

展示部門

市民の皆さんに市民活動団体を見て知っていただき、身近に感じていただくこと、各団体の展示ブースを設置。交流しながら、活動の成果や様子をポスター、パネルなどで紹介します。また、ポスター・チラシにより市民活動団体を知っていただくコーナーもあります。



センター何でも掲示板

**山形市市民活動支援センター
ボランティア情報掲示板のご利用について**

当センターでは2010年11月よりボランティア情報掲示板を運用しています。この掲示板は、ボランティア活動を探している方とボランティアを募集している団体とをつなぐ窓口として開設致しました。

■ホームページ「ボランティア情報掲示板」をチェック!
<http://blog.canpan.info/vcscv/>

山形市市民活動支援センターボランティア情報掲示板 で 検索

*ボランティアに参加したい、活動内容について詳しいことが聞きたい方
→情報掲示板の各団体の連絡先までお問い合わせください。
*ボランティア情報を掲載したい団体の方
→詳しくは当センターまでお問い合わせください。

**山形市市民活動支援センターマネジメント講座
「雇用に関する事務処理の基礎を学びませんか
〜総務・労務編〜」**

・労働基準法って何? ・総務ってどんな仕事?
・雇用したら必要な事務処理って? ・手続きはどうしたらいいの?

■日 時: 1月20日(木) 労働基準法
1月27日(木) 労働保険(労災保険・雇用保険)
2月 3日(木) 社会保険(健康保険・厚生年金)
2月10日(木) 就業規則・賃金など
☆時間は4回とも午後14時~16時

■講 師: 行政書士・労働保険事務組合事務センター
事務所長 鈴木右工門氏

■場 所: 市民活動支援センター2階会議室B

■対 象: NPO・市民活動に関わる方 20名程度

**“子どもに関わるボランティア”トークサロン
開催します!**

開催日程

■日 時: 平成23年1月22日(土)
午後13時~15時

■ゲ ス ト: 芦野輝広さん(だがしや楽校)

■場 所: 市民活動支援センター2階
ミーティングコーナー

■対 象: 10名程度

■締 切: 平成23年1月21日(金)

<内 容>
地域で子どもの居場所づくりのために活動している「だがしや楽校」。だがしや楽校の実践のお話や、ボランティアの現場でのうれしいこと、大変なことなどお茶を飲みながら話します。「だがしや楽校」体験ではハステル画を描く予定です。

**「地域でできる身近なことを知りたい方のための
ボランティア入門講座を開催します。」**

■日 時: ①2月12日(土) 午後14時~16時
②2月26日(土) 午前10時~12時
③2月27日(日) 午後12時30分~15時30分頃

■場 所: ①、②市民活動支援センター会議室
③霞城セントラル1階アトリウム

■対 象: ボランティア活動に関心のある方先着10名
(高校生以上の学生も参加可)

■内 容:
①、②
活動をしているボランティア実践者の体験談を聞き、ワークショップを通して、「ボランティア」について学びます。身近にどんな活動があるかを知る、活動初心者向けの講座です。
③市民活動まつりに参加、見学
当日行われる「やまがた市民活動まつり」に参加、見学をして、団体の方とおしゃべりしてみませんか? ※参加は希望者のみ(開催時間中、自由に見学可)

編集後記
特集の大きなテーマは「人に伝えたいことを伝えるには」。人に何かを伝える場面は様々な場面がありますが、今回は会議でメンバーに企画を提案する前に押さえておきたい基本的な企画の勘所をご紹介しました。冬の間の筋力トレーニングではないですが、私も4月の新年度に向けて伝える力をつけていきたいと思っています。情報誌のご意見ご感想ぜひお寄せください(柴田)

山形市市民活動支援センターだより
発行責任者: 所長 齋藤和人
編集: 石山、柴田
表紙イラスト: 藤井



山形市の市民活動の情報をお届けする情報紙

山形市市民活動支援センターだより

〒990-8580 山形市城南町1-1-1 霞城セントラル22・23階
TEL: 023-647-2260 FAX: 023-647-2261
E-mail: center@yamagata-npo.jp

発行元 山形市市民活動支援センター
発行日 2011年 1月 12日

Contents

特集

～講座やイベント、機関誌発行などの企画を立てる時のポイントをご紹介します～

企画づくりの『勘所』

- 新年のご挨拶 - 山形市市民活動支援センターセンター長 齋藤和人
- 2月27日(土)開催!第3回やまがた市民活動まつりの見どころ
- センター何でも掲示板

vol.6



新年のご挨拶

山形市市民活動支援センターセンター長 齋藤和人

新年明けましておめでとうございます。早いもので私たちNPO法人アミルがこの施設の運営を始め、3回目の新年を迎えます。職員達も、やっといろいろな活動をされている皆様の事が少しずつ理解出来るようになり、「こんなつながりが出来れば良いですね。」「この講座に参加されてみてはいかがですか?」などと言った会話も日常聞かれる様になってきました。私たちの仕事は、みなさんの応援団ですから、日頃感じている疑問や、発信したい情報があればお気軽にお願いいたします。3年と言えば中学や高校で言えば一区切り。私たちもここで再スタートを切って、新しい市民活動のステージを創りあげてお手伝いをしていこうと考えています。みなさんと一緒に「行動するセンター!」を目指しますので、今年もよろしくお願い申し上げます。

山形市市民活動支援センターは、NPO法人アミルが指定管理者として運営しています。山形市市民活動支援センター登録団体の数(2011年1月現在)286団体 団体の詳細は、http://www.yamagata-npo.jp をご覧ください。

企画づくりの

『勘所』



このページでは、「講座」や「イベント」「機関紙発行」など、市民活動団体が企画を立てる際に押さえておきたい“企画づくりの勘所”を紹介します。『勘所』とは、「はずしてはならない重要なポイント」のこと。押さえておきたい『勘所』を、センタースタッフが企画をした時に出た課題や、実際の相談を元にしてまとめました。基本的なポイントを3つに絞り紹介していますので、企画づくり初心者の方や改めて企画づくりの基本を知りたい方に読んでいただければと思います。

来年度に向けて、イベントや講座の企画を立てる前に“企画づくりの勘所”を押さえておきましょう。



ポイント

1

その企画、「ニーズ」は はっきりしていますか？

イベントや講座の参加者が求めている「ニーズ」に合わせて企画を立てましょう



ニーズを探る

イベントや講座などの企画を形にする前に、まず対象者が「何に困っている」のか、「何を求めている」のかという『needs（ニーズ）』を探っておきましょう。企画の元になる事実、つまりニーズが無いまま、「私はこう考える」というアイデアや自分の「こうあるべき」という先入観などから企画が出発していると、対象者と企画内容に矛盾が出てくる可能性があります。企画を発想する際は、現場で「こんなことを必要としている人がいる」「こんな問題点がある」「こんなことで困っている」という事実を探りましょう。



ニーズを把握することが土台になる

例えば「実際に10団体の人がNPOの会計で悩んでいるみたいです」、「パソコンを使った情報発信で悩んでいると〇〇さんが言っていました」という事実があり、だからこういう講座を企画したいんです！という流れにすれば、説得力があり、「それって必要だよな」と矛盾なく企画することができます。

企画者は、ニーズがわかれば、「対象者がこの企画によってどうなってほしいのか」という企画のゴールや期待する成果を明確にすることができ、企画を進め易くなります。

普段の活動の中で、対象者の人からニーズ・事実をつかむことが、企画を考える時の一番の土台になります。



ニーズを把握するために

事実をたくさん知るには、活動で対象としている利用者の方と普段の活動の中でコミュニケーションを取ったり、現場に行きお話を聞いたり、日常的にその人たちの困りごとを聞くということがまず出発点。実際の現場の声を聞くことが基本になります。なかなか現場に聞きに行けない、実際の声だけでは意見の数が足りない時などは、アンケートを行い多数の意見を収集したり、国や県、市町村が実施した統計資料や調査資料を見たりするというのも有効です。

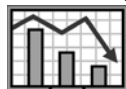
例えば…
統計情報はこちらでチェック！

★山形市の統計資料掲載ページ

http://www.yamagata-npo.jp/modules/d7/index.php?cat_id=8

★山形県の統計資料掲載ページ

<http://dww2.pref.yamagata.jp/tokei/home.html>



ポイント

2

その企画、「目的」は はっきりしていますか？

どんなことを実現するために
企画を実施するのかを明確にしましょう



成果を具体的にイメージする

成果をイメージするとは、例えば、企画したイベントや講座を受けた後、参加者がどんな状態になるのかをイメージすること。参加者がどんな状態になると、この企画は成功といえるのかを考える必要があります。今回は対象者にどの基準まで理解してもらえたり、考えてもらえたりすると、企画者側として目標が達成されるのかを明確にしましょう。それをもとにイベントや講座の内容や達成度、目標数値など企画の具体的なことを決めていきます。



企画方法・内容を成果にふさわしく

例えば、「富士山に登りたい！」と思ったときに、頂上までこれくらいの体力と装備が必要だということが分かると準備ができます。そして、準備を一つずつクリアしていき、初めて富士山登山にチャレンジできます。企画も同じように、達成したい成果を具体的にイメージし、「成果を出すためにはどんな企画の方法・内容がふさわしいのか」ということを考える必要があります。成果を達成するための方法に矛盾があれば成果を出せません。成果を出すためにはどんな要素が必要なのかを細分化し、リストアップしてその必要なリストに沿って企画を決めていくとスムーズです。チェックリスト表を作成することなども有効です。



成果を出すために必要な要素を明確にする

例えば、「〇〇について理解を深めてもらう」という成果を設定し企画を立てるとしたら、理解を深めてもらうとは具体的にどんなことなのか？を明確にしましょう。抽象的な言葉でかかげず、成果や起こしたい変化をより具体的に表現しましょう。

また、成果をより具体的に表現するには、自分自身が参加者になったつもりで、イベントや講座にどんな要素が含まれるとよいか、ということを考えてみるのもよいかもかもしれません。

ポイント

3

その企画、「団体のミッション」に 沿っていますか？

団体の活動の目的に沿った
イベントや講座の企画を行い、
団体のミッションを達成しましょう



企画をする前にまず団体の活動の目的や

実現したいことを確認する

企画を形にする前に、「私達の団体はこんなことを目指して活動する」などの、団体の活動目的や実現したいことを確認し、それに合致した企画を立てましょう。そして、団体の活動目的の中で、その企画を通してどんなことを実現したいのかを明確にしていきましょう。企画者が団体の活動の目的や実現したいことを確認せず企画すると、ミッションに合致しない企画になる可能性があり、メンバーからの理解が得られなくなってしまいます。



団体の目的に合った企画なのかを確認するには

団体の目的に合った企画なのかを確認するためには、「団体が実現したいこと」を企画者がどれだけ理解しているかが重要なポイント。「団体が実現したいこと」を確認するということを登山に例えると、団体がこの山に登ろうとしているか、登る山の高さや目指す山を確認することと似ています。団体の中に、日本一高い「富士山」に登ろうとしている人と、標高の低い山形市の地域の山「千歳山」に登ろうとしている人がいれば、目指すところに相違が出てしまいます。「団体の実現したいこと」と「企画を実施して実現したいこと」が合っているか自信がない場合は、企画を作っている途中で団体の理事や上司など信頼できる人に確認や相談をしたり、事業計画書などを再度確認したりしましょう。



団体の目的に合った企画を行い、 社会のための企画につなげる

市民活動団体は、実現したいミッションがあり、実現のために事業を行っています。その企画が団体のミッション実現の一つの手段になっていることが重要。会議等で企画が通らないのは、自分の発想力がない、アイデアが悪いから通らないのではなく、組織の目的に合った企画が提案できていない場合もあります。企画の内容が団体の目的に合った内容になっていれば、団体のミッションにつながる効果が期待でき、ひいては団体の活動の対象者の皆さんの課題解決につながるでしょう。